

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>  
 第620号 2021年10月10日

## 鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2021年5月16日 主の昇天 B年  
 マルコ福音書 16章15 - 20節

「主の昇天」…〈イエスが天に昇る〉というのは、不思議な表現だな、と毎年思います。そして、これも毎年言うことですが、イエスが天に昇る場面を具体的に描くのは、第1朗読の『使徒言行録』も含めてルカだけです。今日の福音のマルコは、ちょっと象徴的ですね。「主イエスは…天に上げられ、神の右の座に着かれた。」でもすぐそのあとに「主は彼らと共に働き…」とありますから、これは弟子たちにとって、決してイエスが自分たちから離れてしまった体験ではない、と言えらると思います。

「天の父」という表現もあるように、古代の人たちにとって「天」は神さまの領域、でした。そこからすれば、イエスもまた「神さまの領域におられる方となった」ということなのかもしれません。

マタイは、もっとわかりやすく、その福音を締めくくります。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。(マタイ28:20b)〈共にいてくださる神〉、それがマタイ福音書を貫く大きなテーマですが、これは旧約においても、繰り返し神さまから発せられるメッセージでもあります。例えば『出エジプト記』において、神さまがモーセをエジプトに派遣しようとする際、モーセは、しり込みして、あの手この手で断ろうとしますが、そんなモーセに神さまは何度も「このわたしが、いつもあなたと共に

にいる」と言われます。新約においては、イエスというお方こそがそのしるし、ということなのでしょう。

つまり「キリストの復活」とは、時代を超えて、いつもキリストがわたしたちと共にいてくださるということ、さらにそのキリストを通して、神さまはいつの時代にあっても、どんな時にも、わたしたちに呼びかけられ、わたしたちに働きかけられているということ、と言えらるかもしれません。

〈共にいてくださるキリスト〉…今年も復活節の締めくくりを迎えるにあたって、それを改めて心に留めたいと思います。